令和４年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立北前野小学校

■児童の学力の状況

〇「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では内容全体を俯瞰して複数の言葉から意味を考えることに課題が見られた。算数では問題解決の目的に応じて複数の数量、図形を関係付けながら筋道立てて論理的に考え、特徴や性質などを見いだすことに課題が見られた。理科では、複数の情報を多面的・多角的に比較、関係付けながら科学的に考えることに課題が見られた。
〇文章や図表等から読み取ったことを基にして論理的に考えて課題を解決したり、複数の条件に合わせて考えたことを整理し直してまとめたりすることを苦手としている児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

〇「板橋区授業スタンダード」に基づいた学習の実施をより徹底するとともに、ICT機器も効果的に活用しながら児童の思考をつなげて学びを深める展開の充実と表現力向上を図る必要がある。
〇一人一台端末を効果的に活用して、各教科の学びをつなぎ探究する学習を推進していく必要がある。
〇９年間の学びの系統性・体系性を意識した学習を実践し、小中一貫教育の取組を躍進していかなければならない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

〇「板橋区授業スタンダード」に基づいて９年間の系統性・体系性を踏まえた基礎的・基本的な学習内容の確実な定着、「読み解く力」の育成を図るともに、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。そのために、児童一人一人の学習の理解度・達成度を明確に把握し、一人一台端末の活用、少人数指導や教科担任制（交換授業）の実施等、学習指導法や指導体制の工夫・改善を図る。
〇教師の問いに児童が答える「一問一答型」の学習から、教師の問いから児童の思考がつながる「一問繋答型」の学習に転換を図り、ICT機器も効果的に活用しながら問題解決型・探究型の学習展開のさらなる充実を図る。
〇実社会や実生活の中から課題を見いだし、一人一台端末等を効果的に活用しながら探究的に解決する教科横断的・総合的な学習の充実を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 問題解決型・探究型の授業	視点２ 協働学習の導入	視点３ 指導と評価と支援の一体化
〇文章や図表等を読む活動、複数の条件を満たしながら、考えたことを整理し直してまとめて書く活動の機会の充実を図る。また、児童の思考をつなぎながら論理的に課題を解決する学習を展開する。	〇総合的な学習な時間を主軸に、児童一人一人が情報収集、整理・分析、考察した後に、他者と議論したり、試行錯誤しながら問題を解決する学習活動を多く行う。	〇具体的なめあてを提示し、めあてに対して振り返る時間を設定する。 〇毎時間児童一人一人の学習の理解度・達成度を明確に把握し、次時に指導の改善や個別支援を行う。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
〇一人一台端末をはじめ、スマートフォンやパソコン等の情報機器の効果的な活用のため、各学年の発達段階に応じて、各教科の特性を生かしながら情報モラル教育を推進し、正しく情報機器を活用する資質・能力を育む。 〇安心して学習できる望ましい集団の形成するため、学級活動を中心に、学級や学校の生活上の課題解決に向けて話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践する活動を充実する。	〇情報の収集、整理・分析、共有、まとめ・振り返りという探究の過程で、学習ツールの１つとして一人一台端末を効果的に活用する。 〇宿題（学習の課題）だけでなく、児童一人一人が学習の理解度・達成度に合わせて、一人一台端末を用いたドリル学習等を自学として取り組ませ、家庭学習の充実を図る。 〇コミュニティスクール委員会、学校支援地域本部、PTAとともに個別学習、協働学習、体験学習等を行うカリキュラムの充実を図る。	〇校内研究を通して、国語・算数・理科において「読み解く力」（文章や図表等から読み取ったことを基にして論理的に考えて課題を解決したり、自分の思いや考えを表現したりする力）を育成する指導の向上に努める。 〇協働して教材研究を行う、授業観察をして意見交換をする等、互いに指導力を高める機会を増やす。 〇ICT機器を活用した授業の指導方法の共有を活発化する。